

小村寿太郎侯生家



小村寿太郎侯の墓は過去二度お参りした。墓碑銘は東郷平八郎元帥が書いた。小村侯に関する書籍を何冊か読み、誕生地の飢肥への憧れが強くなった。飢肥とはどのような城下町か、寿太郎少年を育んだ土地がどの

げた。日本存亡の危機に自らの才能と信念を持って冷静沈着に外交に進み、亡くなる直前まで各国との不平等条約の改定に、尽力した優秀な日本国屈指の外交官である。

小村侯は日記類を含めて自分の回顧録等も残さなかった。しかし、大学南校時代彼が英語で書き上げた自叙伝が残っている。(骨肉・小村捷治著に掲載) 綴

見送りして下さった。出会いは無形の財産だ。わずかな滞在であっても、いい出会いがあると、その旅は一生の宝となり、いつまでも脳裏に映像となり残る。



飢肥 小村記念館にて

宮崎県・飢肥^{おび} 小村記念館を訪ねて

竹田 豊

様な土地に興味湧いた。今年八月英国に於いて一般社団法人大日本武徳会国際部及び本部主催の「日英同盟友好親善百一周年記念・英国武徳祭」が開催される事となり、私も英国武徳祭参加使節団の一員となった。英国行きを機に小村寿太郎侯爵の故郷を訪ね、貴重な歴史資料が現在の我々に訴える意義や、小村侯の人となりに触れたいとの思いで平成二十五年七月十一日、日南市・飢肥に行った。

宮崎県・日南市に旧飢肥藩五万一千石の静かな城下町がある。安政二年(一八五五)九月二十六日小村寿太郎侯は飢肥藩で生まれた。小村侯の業績は、明治三十五年(一九〇二)小村侯が推し進めた日英同盟の締結。日英同盟を背景に日露戦争における我が国の外交を指導し、明治三十八年(一九〇五)米国ニューハンプシャー州ポーツマスにて行われた日露講和会議(ポーツマス条約)の条約締結の偉業を成し遂

飢肥には小村記念館があり、小村侯の足跡を知るには一番である。小村記念館では郡司均館長が直接対応して下さいました。郡司館長は気さくな方で、記念館内の資料の一つ一つを熱く解説して下さいました。猛暑

にもかわからず飢肥城趾、武家町にも案内して頂いた。帰りには私が振り返る度に、何度も何度も郡司館長は手を振ってお